

週末から突然の寒さで、月山や鳥海山で初冠雪が報告されました。学校でも暖房の点検を急いではじめました。

《最上町立最上中学校》

NO.13 R6. 10. 22

担当：校長

学校点描

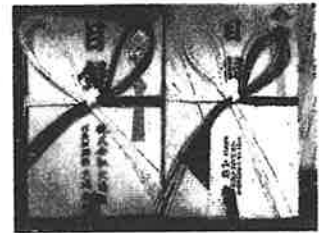
続

山形県防犯広報作品コンクールポスターの部で佐藤結愛さんの作品が「佳作」に選ばれました。

10月7日に株式会社大場組様、山田建設株式会社様より町へサッカーゴールの代金として寄付がありました。町は、いただいた寄付金を使ってサッカーゴール2台を購入し、最上中に設置してくれます。重いサッカーゴールは安全面から心配していました。本当にありがとうございました

10月19日（土）、20日（日）は県中体連新人北ブロック大会が各会場で開催されました。柔道競技では、男子個人55Kg級で菅 将吾さんが準優勝、女子44Kg級で冨澤咲来さんが第3位、52Kg級で高橋千野さんが第3位で決勝大会出場を決めました。卓球女子個人で後藤咲衣桜さんが第5位となり決勝大会出場を決めました。

20日（日）には吹奏楽部主催の町民感謝コンサートが開かれました。司会・進行を行った生徒たちはいろいろ工夫してコンサートを盛り上げていました。昼食時間などにミーティングをして準備してきた成果がしっかり出たみたいです。



支えとなるもの

先週は、全国校長会教育研究会議のため、岩手県盛岡市に滞在していました。宿泊したホテルの近くには、石川啄木が新婚時代に過ごした家が今も残っていたので、朝の散歩がてらに一人で観に行きます。石川啄木は、岩手県出身の歌人で、明治時代に活躍しました。貧苦と病苦の中で短歌を詠み、歌集『一握の砂』で有名になりますが、27歳にして病でこの世を去りました。

会議2日目は、矢巾北中学校特設音楽部の中学生が合唱を披露してくれました。全員いろいろな部活に入りながら、部活動始まる前に毎日練習しているそうです。途中でひとりの中学生が、音楽の楽しさを知り、声をそろえるうれしさを支えに全員で練習して学校の音楽文化を盛り上げようと頑張っていると話しました。



久しぶりに学校に戻ると、各学級で合唱練習が行われています。どこのクラスも悪戦苦闘しているようです。合唱のリーダーの苦悩が見て取れます。

わたしにも、まとまらない合唱練習のエピソードはいくつかあります。

「男子、ちゃんと声出してっが？」 「もっと、まじめに歌ってください！」

Dくんは、学級委員でしたが、合唱委員でも、指揮者でもありません。けれど、この数週間、自ら進んでクラスのハーモニー作りにリーダーシップを発揮してきました。一方で、クラスの中にはDくんの指示にやや反発気味の人もいました。

本番当日の合唱は、練習の成果が出た見事な歌声でした。でも結果は、中間発表会から、頭ひとつリードしていた隣のクラスに負けてしまいました。

表彰式も終わり、リュックを背負って帰ろうとするDくんを呼び止めて言いました。

「Dくんありがとう。君のお陰でここまでやれたよ」と。

すると、Dくんは

「先生、俺なんかより、俺に協力して一生懸命声を出してくれた、Yくんの方がずっと偉い」と言いました。

Dくんを支えてきたものは、自分の指示に対していつも大きな歌声でこたえてくれたYくんの存在でした。

当時の学級通信より

石川啄木の盛岡時代は決して楽しいばかりではありませんでした。学校の成績が悪くなり退学したことや家庭の事情で追われるように県外に出て行ったことなど、ふるさとでの苦い思い出もたくさんでした。



それでも、同じ方言で語り合った学生時代の友との思い出は、生涯生きる支えとなったのです。故郷に帰ることが、かなわなくなった気持ちを歌に込めます。

『ふるさとの 訛り懐かし駐車場の 人ごみの中に そを聴きに行く』

『懐かしい故郷の訛り（なまり）である東北弁を求め、今日も上野駅の人ごみのなかにそれ（ふるさとの方言）を聞きにゆく』

出展：「一握の砂」

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。